

TC02S

2:Ver1.10

TCD2SER2 Util Ver1.3.1.0



Timecode Sync for CFR

取扱説明書



この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保存し必要なときにお読みください

安全上のご注意

- ご使用前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので必ずお守り下さい。
- ◆次の表示区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、 死亡または重傷などを負う可能性 が想定される内容です
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、 傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生 が想定される内容です

- ◆次の絵表示の区分はお守りいただく内容を示しています。

 禁止	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
 強制	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

- ⊗ **分解、改造をしない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **金属類を差し込まない**
隙間などから金属類を差し込んだりしないで下さい。火災感電故障の原因になります。
- ⊗ **濡らさない**
水などの液体が入ると発熱、火災、感電、故障の原因になります。
- ❗ **ACコンセントは確実に差し込む**
コンセントの差込が不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ❗ **コネクタは確実に差し込む**
コネクタの差込、締め付けが不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ⊗ **ACコードを傷つけない**
コードを無理に曲げたり加工したり、引っ張ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。
- ❗ **異常が起きたときは**
万一、発煙、異臭、異常音などがあった時は直ちにACコンセントを抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。



注意

- ⊗ **煙や湯気が当たる場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **湿気やほこりの多い場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **不安定な場所や振動の多い場所に置かない**
落ちたり、倒れたりするとけが、故障の原因になります。
- ⊗ **ACコンセントから抜くときはプラグをもって抜く**
コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因になります。

目次

1. 概要	1
2. 設置について	1
3. 動作・設定	1
3-1. 接続	1
3-2. 電源投入	1
3-3. 設定	1
4. PC を繋いでの設定	3
4.1 ドライバーのインストール、設定	3
4.2 編集ソフト	4
5. 仕様	6

1. 概要

本機は、タイムコード（SMPTE、MTC）を受けて CF Recorder のプログラムを RS232C 経由で呼び出します。

- 実行CUEは128個作ることが出来ます。
- タイムコードはSMPTE(30F Drop,NonDrop),MTCを受けることが出来ます
- タイムコード信号が途切れ時に、BACK UP機能に設定したプログラムを呼び出すことが出来ます。
- WindowsPCを繋ぐ事で設定を行ったり、設定を保存、読み込み出来ます。

2. 設置について

本機の設置にあたっては以下の注意を守って下さい。

- 直射日光の当たる場所、周囲温度・湿度の高い場所、ほこりの多い場所での使用は避けて下さい
- RS232Cケーブルは電源ケーブルと一緒にしないで下さい。またマイク等の小レベル信号のケーブルと一緒にするとノイズを与える可能性がありますので、できるだけ避けて下さい。
- ケーブル類の着脱は必ず電源がOFFの状態で行って下さい。
- 電源は定格以内で、変動やノイズの少ない物を使用して下さい。また調光ユニットの出力は絶対に使用しないで下さい。

3. 動作・設定

3-1. 接続

タイムコードを3Pキャノン（SMPTE）またはMIDIポート（MTC）に接続して下さい。

RS232Cストレートケーブルで本機とCF Recorderを接続して下さい。

※ケーブル長が足りない場合は別途 RS232C ストレートケーブルをご用意下さい。

3-2. 電源投入

1. 全ての接続が終了したら、電源を差し込んで下さい。
2. 液晶が表示されタイムコード受信状態になります。

入力表示	LTC → SMPTE	
	MTC → MTC	
LTC 00:00:00:00	受信タイムコード表示	
PS1 00:00:05:00	次の実行表示	

3-3. 設定

1. CUEの設定

MENUボタンを押します。

EDIT MENU ##
 CUE

CUEの編集画面に切り替わります。

ENTERを押して下さい。

EDIT MENU ##
 >CUE 0

CUE番号を▼▲で選択しENTERを押します。

CUE1 █
 00:00:00:00

設定したCUEで呼び出したいCF Recorderのプログラム番号を▼▲で選択しENTERを押します。

P1~P64（プログラム）,PS1~PS4（スタック）が設定出来ます。

CUE1 P1
 0 : 00 : 00 : 00

カーソルが時間欄に移動します
 ▼ ▲ で設定してENTERを押します。
 ENTERを押す毎にカーソルが右に移動します。
 単位は時、分、秒、フレームになります。
 カーソルが右端まで行くと最初の画面に戻ります。

EDIT MENU ##
 CUE

2. BACK UP の設定

MENUボタンを押します。

EDIT MENU ##
 CUE

CUEの編集画面に切り替わります。

ENTERを押して下さい。

EDIT MENU ##
 >BACKUP

CUE番号の画面でBACK UPが表示されるまで、▼ ▲ を押し、ENTERを押します。

BACKUP █

BACK UPで呼び出したいCF Recorderのプログラム番号を▼ ▲ で選択しENTERを押します。

EDIT MENU ##
 CUE

ENTERを押すと、最初の画面に戻ります。

3. タイムコード入力の切替

MENUボタンを押します

EDIT MENU ##
 CUE

この画面で▼ ▲ を押すとタイムコード入力設定に切り替わります。

EDIT MENU ##
 INPUT

ENTERを押します。

EDIT MENU ##
 >INPUT SMPTE █

▼ ▲ でSMPTEかMTCかを表示させてENTERを押します。

EDIT MENU ##
 >INPUT MTC █

注：入力切替を行った後は一旦電源を入れ直して下さい。

LTC 00 : 00 : 00 : 00
 PS1 00 : 00 : 05 : 00

実行画面の右上で現在の入力を確認出来ます

LTC : SMPTE
 MTC : MIDI TIME CODE

編集中にMENUボタンを押すといつでも実行画面に戻ります

4. PCを繋いでの設定

本機は、USB端子を使ってWindowsPCから設定を行い、設定を保存、読み込むことができます。

4.1 ドライバーのインストール、設定

4.1.1 ドライバのインストール

製品に付属しているUSBメモリーを、PCに接続し、メモリーの中にあるdriverフォルダーから『CDM2XXXXX_Setup.exe』をダブルクリックして、実行してください。
 実行を行うと、ウィンドウが開き、自動的にインストールが行われます。
 インストール終了後に、次のページで説明しますデバイスマネージャーで、COMポートの確認を行い、製品とPCを接続してください。

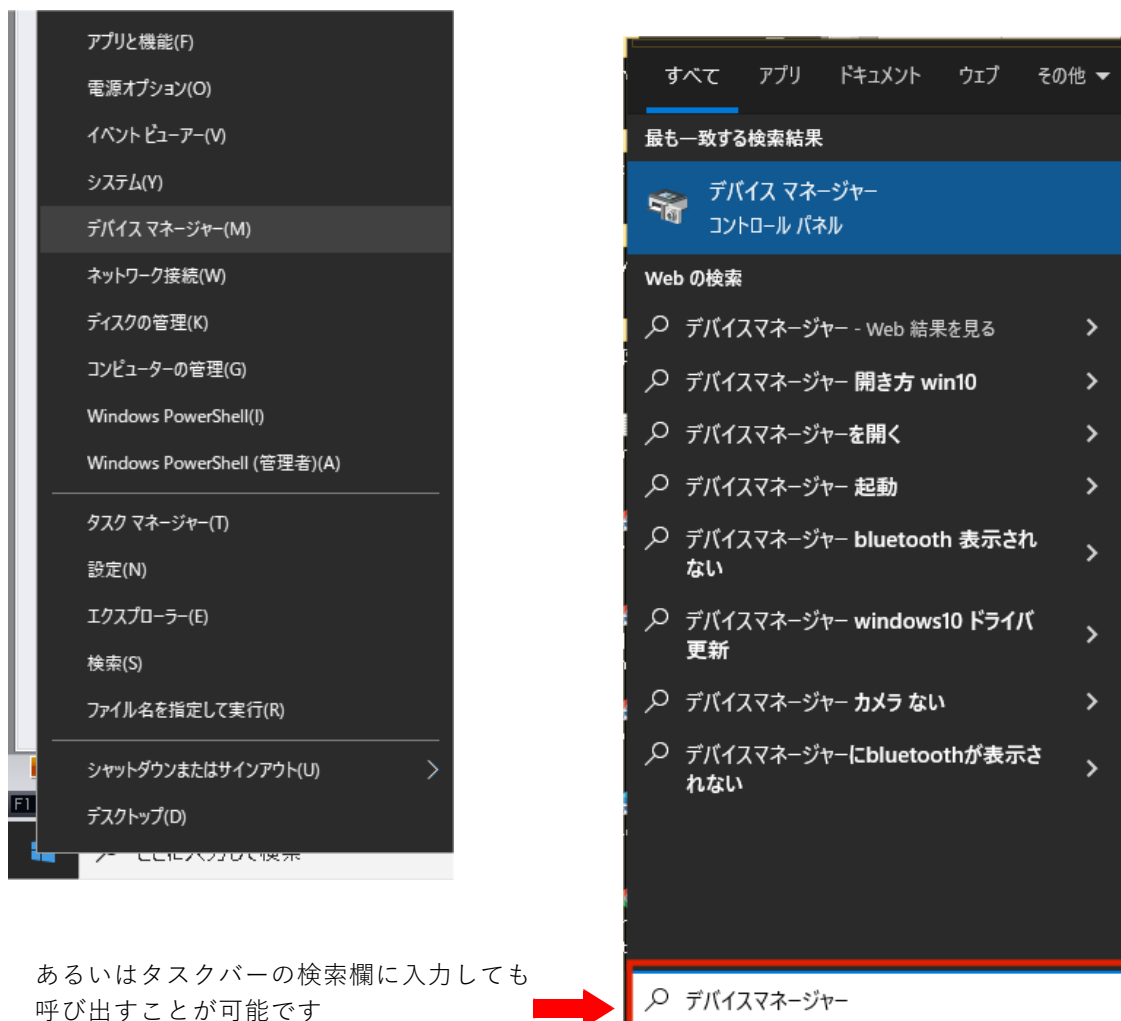
※ドライバーのインストールは、製品を接続して、ソフトウェアを立ち上げる前に行ってください。

4.1.2 COMポートの確認

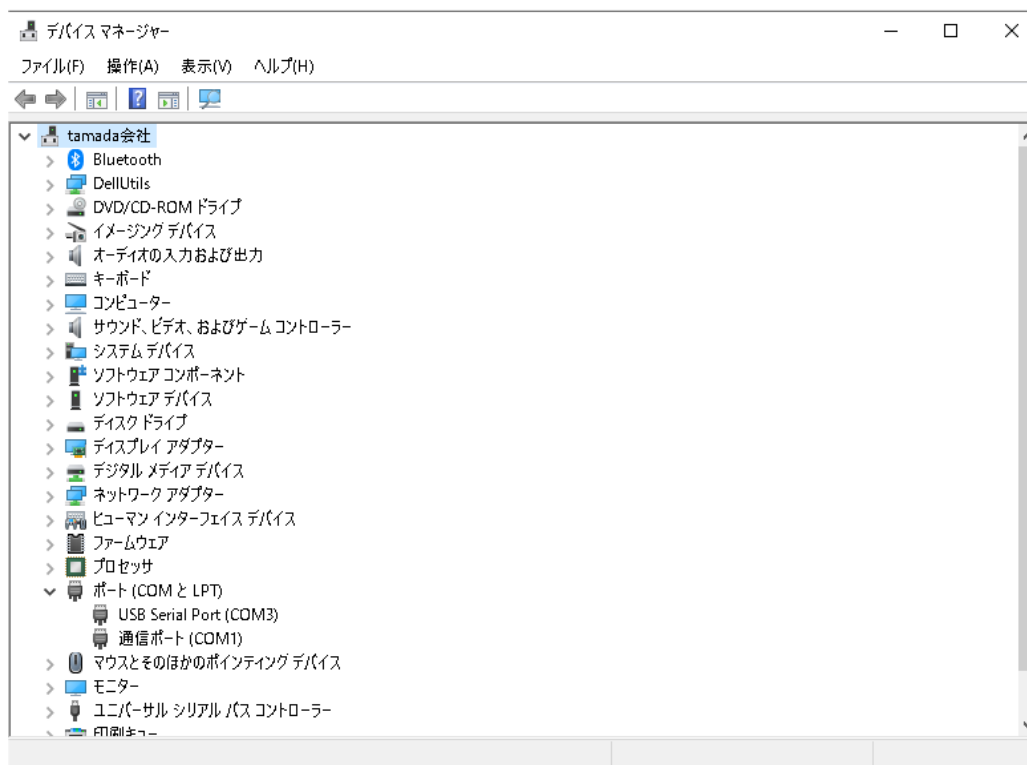
仮想COMポートドライバをインストール後、COMポートが何番に割り当てられているか確認します。
 このCOMポート番号は変更する事も出来ます。

まず、本機をPCに接続して下さい。
 Windowsのデバイスマネージャーで確認します

1. Windowsマークを右クリックしてリストから「デバイスマネージャー」を選択します。



2. 開いたデバイスマネージャーで「ポート (COMとLPT)」を開くと、「USB Serial Port(COM X)」と表示されています。(下の画像の場合はCOM 3)



この一覧で、「USB Serial Port (COM x)」が、本機に割り当てられたCOMポートです。COM番号を確認してください。右クリックしプロパティから番号の変更もできます。

パソコンからは、このCOMポートへアクセスすることで、本機と通信できます。

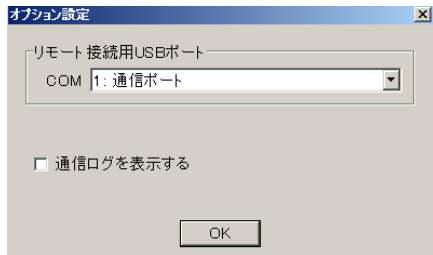
4.2 編集ソフト

付属USBメモリー内のT2SUTLフォルダーを、フォルダーごとPCの適当な場所にコピーしてください。フォルダー内にあるT2SUtl.exeを実行すると、ソフトウェアが立ち上がります。

4.2.1 準備

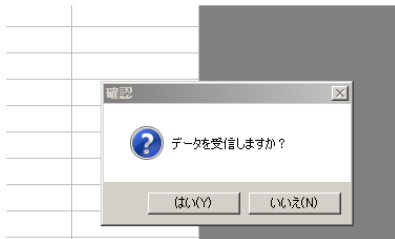


本体と通信する場合は**COM**ポートの設定を行います。
「設定」 - 「オプション設定」

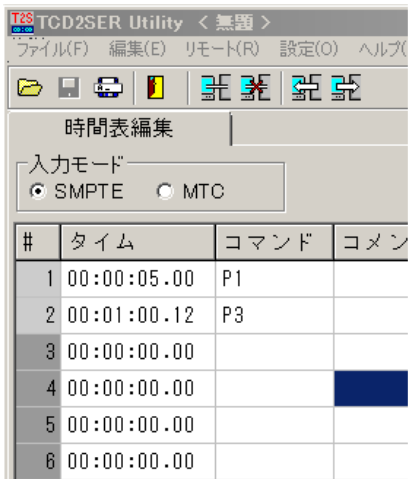


「4.1.2 COMポートの確認」で設定した**COM**ポート番号を選択します。

4.2.2 CUEの作成



本体を接続してソフトを起動するとデータ受信画面が開きます。



時間とコマンドを設定したら最後に「リモート」 - 「データ転送」で作成したデータを本体に転送して下さい。

CUEは最大**128**個、作成することができます。

CEU作成ページの一番下の項目(**BAK**)にて、**BACK UP**を設定することができます。

5. 仕様

入力 SMPTE コネクター MTC コネクター	ノトリックXLRタイプ3P メス (バランス、2番HOT) DIN5P
出力 RS232C	Dsub9P (CF Recorder専用コマンド)
電源 定格電力 外形寸法 動作温度、湿度	AC 90～240V 50/60Hz 5W W: 213 H: 41.4 D: 134 (突起部除く) 0℃～50℃、10%～85% (結露無し)

本製品及び本書の内容は予告なしに変更される事がありますのでご了承下さい

(本書製作日2024年8月28日)

